

エムポックスって遺伝子型によるちがいはあるの？

どんな病気？

- ・エムポックスはエムポックスウイルスによる感染症です。
- ・エムポックスウイルスは、現在大きく分けて2つ遺伝子型（クレードⅠ、クレードⅡ）が報告されており、最近の専門機関の評価では、遺伝子型による致死率や感染・伝播性等の差は顕著ではなく、異なる対応を行う必要はないと考えられています。
- ・エムポックスの潜伏期間は6～13日（最大5～21日）とされており、発症すると、発熱、頭痛、リンパ節腫脹、筋肉痛などの症状が続く（前駆症状）、発熱1～3日後に発疹が出現します。近年では前駆症状がない事例も報告されています。

● 遺伝子型による致死率や感染・伝播性等の差は顕著ではない（2022年以降の情報を基に作成）

	アフリカ	アフリカ以外
クレードⅠ 2024年～2025年のPHEIC	 流行の中心 性別を問わない  感染の経路 性的接触 / 家庭内  流行の傾向 主にアフリカ中部で流行縮小傾向  致死率 1.4%-1.7% (クレードⅠa) 1%以下 (クレードⅠb)	 流行の中心 性別を問わない  感染の経路 性的接触 / 家庭内  流行の傾向 複数国から報告あるが、市中感染はなし（主にアフリカ渡航の関連）  致死率 死者ゼロ 日本の感染例1 ・渡航歴のある女性
クレードⅡ 2022年～2023年のPHEIC	 流行の中心 性別を問わない  感染の経路 性的接触 / 家庭内  流行の傾向 主にアフリカ西部で流行増えている国もあるが小規模  致死率 1%以下	 流行の中心 ゲイ・バイセクシュアル男性などのMSM（男性とセックスする男性）中心  感染の経路 性的接触  流行の傾向 複数国で流行したが現在は縮小  致死率 0.3% 日本の感染例254* ・男性253例 ・今年の感染例3 ・死亡例1* クレード未確定の例も含まれます

（2025年9月19日時点）

提供：感染症コミュニケーション円卓会議

どうやってうつるの？

主に、感染した人や動物の皮膚の病変、体液、血液に触れた場合（性的接触を含む）や、患者と近くで対面し、長時間の飛沫（ひま）にさらされた場合、患者が使用した寝具等に触れた場合などに感染します。

治療法・予防法はあるの？

- ・多くの場合、発症から2～4週間症状が持続し自然軽快するものの、小児あるいは接触の程度、患者の健康状態、合併症などにより重症化することがあります。痛みが強い場合など症状に応じて緩和する治療を行うことがあります。
- ・国内では抗ウイルス薬テコビルマットが薬事承認され、特定の病院において治療体制が整備されています。
- ・天然痘のワクチンによって約85%発症予防効果があるとされています（相談は特定の病院に限られます）。

都内で相談のできる
医療機関はこちら



エムポックスを疑う症状があった場合はどうすればいいの？

- ・感染の不安がある方は、住んでいるところの保健所又はエムポックスの相談ができる医療機関にご相談ください。
- ・受診の際には周りの人にうつさないよう、飛沫が飛ばないようにサージカルマスクを着用し、水疱を含む皮膚病変はガーゼなどで覆うなどの対策をした上で受診しましょう。

お問い合わせは
お近くの保健所へ

